

令和5年度 事業報告

「文化芸術で歓びと希望を感じるまちづくり」の運営理念のもと、人間市文化創造アトリエの指定管理業務及び法人独自の事業を展開した。

今年度は新型コロナウイルス感染症が収束に向かい、ほとんどの事業が平常に近い状態で開催できた。「遠くより住む地域を」「モノ消費からコト消費へ」のテーマのもと事業を展開し効果を得たと感じた。また、「Well-being」をキーワードに地域資源を生かした事業を展開し、結果として、来館者は前年の6,696人多い42,563人となった。

1. 文化創造事業の概要

事業実施に当たっては「プラン推進会議」で計画を共有し、「ひとづくり」「魅力づくり」「芽づくり」「まちづくり」の各事業をディレクター、スタッフが協調して行った。事業計画は、単年度ではなく長期的な視点に立ち運営方針に沿って立案している。

コロナ感染症の収束後を見据え、「行きたくなる施設」「滞在したくなる施設」を目指し、様々な事業を企画実施した。

[指定管理における文化創造事業]

事業計画は、市民の運営を基本とするアトリエ設置条例と運営方針に基づき、各分野のディレクターと事務局が企画立案し実施した。

事業別については下記のとおりである。

- ① 「ひとづくり」事業では、文化芸術に関心を持つ方、それを支えるスタッフなどを積極的に育てていく企画を行っている。「クラシック音楽レクチャー」では、ショパンについて武蔵野音高の生徒さんの演奏付きで学習した。受講者の学習意欲を感じた。その他、将来のディレクター候補の発掘と育成、公演、イベントなどに当たって案内や誘導、撤収作業など運営に関わるスタッフの育成を行った。
- ② 「魅力づくり」事業では、「アミーゴライブ」「人間国宝山本東次郎 狂言会」「落語会」「夕涼みライブ」「おいしい朝コンサート」など上質な文化芸術を鑑賞する機会を提供した。「朝コンサート」は、テーブル席にプチモーニングといった、コロナ前のスタイルが復活。コーヒーの香りが漂う空間が再現できた。お客様もこの時を待っていたと喜んでくれた。染織工房は昨年と比較し約10%増の体験者があった。市民の文化活動に対する参加意欲の強さを感じた。
- ③ 「芽づくり」事業では、「ドラマ工房」「子ども事業」などを実施した。「ドラマ工房」は、公募市民で作る「劇団アミーゴ」の稽古を通し、公演を実施するものである。コロナ禍の中、自粛していたミニ公演も復活し様々なイベントに参加した。三月の本公演は非常に好評であった。「子ども事業」では、「夏休み体験ひろば」でアート、楽器作り、工作など芸術文化体験を行った。そのほか地域のファミリーをターゲットに企画した「春のこどもひろば」「夕涼み縁日」「0歳からの幼児向けコンサート」は非常に好評であった。ファミリー層への文化芸術によるアプローチに手ごたえを感じた。

- ④ 「まちづくり」事業では、「アートな春フェス(9回目)」は雨となり室内での開催となったが、多くの来場がありワークショップなどで賑わった。「クラフトフェア(16回目)」も二日目は雨模様となり残念であったが、来場者からは今後の開催について期待の声が多くあり好評であった。

地域の繊維産業と平仙レースの歴史を紹介する「糸ものがたり」を開催した。これは、アミーゴのルーツである繊維産業を地域の方や市民に伝えていくことがアミーゴの使命と考え行ったものである。関連団体の協力もあり 750 人の方が来館された。「スタンプラリー」「街かどインフォ」などの事業も行った。コロナ禍で遠くよりも住む地域に関心を寄せる傾向が強くなっている現状に、今後も身近で楽しめる施設づくりを目指したい。

【法人独自の事業】

指定管理業務である文化創造事業のほか、長年培った事業ノウハウをもって、多くのNPO 法人独自の事業を行った。

パートナーシップ事業では、埼玉県芸術総合高校、所沢織物組合、飯能信用金庫、さいたま芸術劇場、入間市観光協会などの団体とアミーゴの文化事業ノウハウを生かしたイベントを行った。また、長年の懸案であったアミーゴカフェがオープンできた。まだ土日のオープンであるが、来館者に非常に好評で、今後も来館者のニーズに合わせたメニューやイベントを企画していきたい。その他、地域活性化を図るために入間市ロケーションサービス推進事業の委託を受け、ロケーション撮影の誘致、支援を行った。

【ボランティアの受け入れ】

大妻女子大学児童学科の学生をアミーゴの子ども対象事業「8/3 子ども音楽室 5 人」「8/6 子どもアトリエ 5 人」「8/20 子ども工作室 6 人」「12/16、17 ハッピー Xmas 4 人・2 人」にボランティアとして受け入れた。

2. アトリエ施設管理事業（指定管理事業）

①施設運営

市民ニーズに対応した窓口サービスを心がけ、利便性を考えた貸館運営を行った。新型コロナウイルス感染症が収束に向かい市民活動が活発になってきたことで利用率は順調に回復してきた。利用人数は、前年比 6,696 人増の利用があり、42,563 人となった。職員、ディレクターはじめ関係者の連携協力で大きな問題もなく業務が遂行できた。

②見学等対応

希望する団体に施設及び運営の説明紹介を行った。(小学校 10 校、団体 8)
コロナ感染症の収束に伴い、多くの施設見学があった。

③修繕、清掃美化

- ・来館者、利用者の安心安全の確保とアメニティー空間を確保するため、施設の修繕、清掃美化に努めた。修繕では、テラス前ベンチの塗装、ホール水銀灯の交換、パティオの枕木の交換等を行った。

- ・ガーデンボランティア活動

館庭美化のため、ボランティアにより除草作業を月2回程度10回行った。その他、個々で都合をつけて除草作業を行うなどボランティアのご協力で、館庭の美化が図られた。各回10～15人の参加があった。

昨年につき、西武中学校の生徒さんがボランティア活動として参加するなど活気ある活動ができた。

3. 広報活動

- ・ホームページ、Facebook、Instagram、X（旧 Twitter）などによる情報提供を常時行った。
- ・広報紙「赤いのこぎり屋根」を3回発行した。
- ・事業チラシ、ミガト（A5版）を発行した。
- ・アミーゴテラスカフェのロゴを作成し活用した。

*このほか様々なメディア、雑誌に取り上げられた。



令和4年度 事業報告

「文化芸術で喜びと希望を感じるまちづくり」の運営理念のもと、入間市文化創造アトリエの指定管理業務及び法人独自の事業を展開した。

新型コロナウイルス感染症の影響は3年目となった。イベント開催や利用人数などに制限が課せられ、利用にあたっては感染対策を十分に行った。

コロナ禍の中でも文化芸術の持つ役割の重要性を考え、積極的に事業開催、安心安全な活動の場の提供に努めた。結果として、来館者は前年の10,000人多い35,867人となった。

1. 文化創造事業の概要

事業実施に当たっては「プラン推進会議」で計画を共有し、「ひとづくり」「魅力づくり」「芽づくり」「まちづくり」の各事業をディレクター、スタッフが協調して行った。事業計画は、単年度ではなく長期的な視点に立ち運営方針に沿って立案している。

コロナ感染症の影響は、新しい生活様式に対応した事業を考える良い機会にもなった。「遠くより住む地域を」のテーマのもとファミリー層を対象にした「こどもひろば事業」は多くのこどもたちが集まり効果を得たと感じた。

[指定管理における文化創造事業]

事業計画は、市民の運営を基本とするアトリエ設置条例と運営方針に基づき、各分野のディレクターと事務局が企画立案し実施した。新型コロナウイルスの影響で昨年同様、すべての事業において、多数の集客は控え感染対策を講じて開催した。

事業別については下記のとおりである。

- ① 「ひとづくり」事業では、文化芸術に関心を持つ方、それを支えるスタッフなどを積極的に育てていく企画を行っている。「クラシック音楽レクチャー」では、バッハについて武蔵野音高の生徒さんの演奏付きで学習した。受講者の学習意欲を感じた。その他、将来のディレクター候補の発掘と育成、公演、イベントなどに当たって案内や誘導、撤収作業など運営に関わるスタッフの育成を行った。
- ② 「魅力づくり」事業では、「アミーゴライブ」「落語会」「夕涼みライブ」「おいしい朝コンサート」など上質な文化芸術を鑑賞する機会を提供した。「朝コンサート」は、庭でコーヒーを出すなど、コロナ禍でもアミーゴでの楽しさや居心地の良さを失わせることのないよう対応に工夫した。染織工房は昨年と比較し25%増の体験者があった。市民の文化活動に対する参加意欲の強さを感じた。
- ③ 「芽づくり」事業では、「ドラマ工房」「子ども事業」などを実施した。「ドラマ工房」は、公募市民で作る「劇団アミーゴ」の稽古を通し、公演を実施するものである。コロナ禍の中、稽古に励んで上演に漕ぎつけた。三月の本公演は非常に好評であった。「子ども事業」では、「ハロウィン2022」「ハッピークリスマス2022」のほか「縁日」「夏祭り」を行った。地域のファミリーをターゲットに新しく企画したものであるが、手ごたえを感じた。

- ④ 「まちづくり」事業では、「アートな春フェス」は昨年につき、内容を縮小して開催した。「クラフトフェア」も4年ぶりに、やはり規模縮小で実施した。埼玉県芸術文化祭の参加事業でもあり、大野元裕埼玉県知事も来訪され励まされた。

「スタンプラリー」「日曜マーケット」「街かどインフォ」などの事業も行った。この2年間、コロナ禍でアウトリーチ事業がほとんど実施できなかったが、今年度は公民館3館で落語会、西武中学校で古典芸能鑑賞会(落語)を開催するなど、施設外での文化芸術の提供機会も再開できた。

コロナ禍で遠くよりも住む地域に関心を寄せる傾向が強くなっている現状に、今後身近で楽しめる施設づくりを目指したい。

[法人独自の事業]

指定管理業務である文化創造事業のほか、長年培った事業ノウハウをもって、多くのNPO法人独自の事業を行った。

本年度は、子どもゆめ基金の助成事業「Fun! AMIGO! 体験ひろば」、埼玉県文化振興基金の助成事業「映画づくり体験ワークショップ」を開催した。夏休み出かけられなかった子どもが多かったこともあり、多くの申し込みがあり盛況であった。また、地域活性化を図るために入間市ロケーションサービス推進事業の委託を受け、ロケーション撮影の誘致、支援を行った。

【ボランティアの受け入れ】

大妻女子大学児童学科の学生をアミーゴの子ども対象事業「7/30, 8/2, 8/5 Fun! AMIGO!」「8/3 映画づくり体験ワークショップ」「10/30 ハロウィン」「12/18 ハッピーXmas」にボランティアとして受け入れた。(各3人)

2. アトリエ施設管理事業（指定管理事業）

①施設運営

市民ニーズに対応した窓口サービスを心がけ、利便性を考えた貸館運営を行った。新型コロナウイルス感染症の影響で事業の縮小及び利用人数の制限などが続いたが、事業の工夫や利用者の協力、理解によって利用コマ数、利用人数ともに前年を大きく上回った。また、大きな問題もなく業務が遂行できた。

②見学等対応

希望する団体に施設及び運営の説明紹介を行った。(小学校7校、他9団体)
コロナ感染症の影響も減少し、多くの見学があった。

③修繕、清掃美化

- ・来館者、利用者の安心安全の確保とアメニティー空間を確保するため、施設の修繕、清掃美化に努めた。修繕では、スタジオ周りの枕木の交換、水銀灯の交換、サロン棟屋根の塗装等を行った。

- ・ガーデンボランティア活動

館庭美化のため、ボランティアにより除草作業を月2回程度10回行った。その他、個々で都合をつけて除草作業を行うなどボランティアのご協力で、館庭の美化が図られた。各回10～15人の参加があった。

西武中学校の生徒さんが参加するなど活気ある活動ができた。

3. 広報活動

- ・ホームページ、フェイスブック、ツイッターなどによる情報提供を常時行った。
- ・広報紙「赤いのこぎり屋根」を3回発行した。
- ・事業チラシ、ミガト(A5版)を発行した。
- ・キャラクター「アミちゃん」をチラシなど広報等に利用。

*このほか様々なメディア、雑誌に取り上げられた。



令和3年度 事業報告

「文化芸術で歓びと希望を感じるまちづくり」の運営理念のもと、入間市文化創造アトリエの指定管理業務及び法人独自の事業を展開した。

新型コロナウイルス感染症の影響は2年目となった。イベント開催や貸館などに制限が課せられ厳しい施設運営となった。施設利用では収容人数が50～70%、利用時間が21時までの利用になった。

しかしながら、コロナ禍の中で、文化芸術に関わる方や享受する方の気持ちに寄り添い、安心安全な活動の場の提供に努めた。結果として、来館者は前年の2倍になった。

1. 文化創造事業の概要

事業実施に当たっては「プラン推進会議」で計画を共有し、「ひとづくり」「魅力づくり」「芽づくり」「まちづくり」の各事業をディレクター、スタッフが協調して行った。事業計画は、単年度ではなく長期的な視点に立ち運営方針に沿って立案している。

新型コロナウイルス感染症の影響により開催した事業のほとんどが人数を制限するなど文化施設にとっては大打撃であった。しかし、新しい生活様式に対応した事業を考える良い機会にもなった。アフターコロナでの「文化施設の存在意義」を職員スタッフ一同で考え、「遠くより住む地域を」のテーマのもと、近隣のファミリーを対象にした事業を立案実施し効果を得たと感じた。

【指定管理における文化創造事業】

事業計画は、市民の運営を基本とするアトリエ設置条例と運営方針に基づき、各分野のディレクターと事務局が企画立案し実施した。コロナウイルスの影響で昨年同様、すべての事業において、多数の集客は控え感染対策を講じて開催した。

事業別については下記のとおりである。

- ① 「ひとづくり」事業では、文化芸術に関心を持つ方、それを支えるスタッフなどを積極的に育てていく企画を行っている。「アート学習会」では、昨年につき、仏像をテーマに学習した。コロナ禍にあっても多くの受講者があり学習意欲を感じた。その他、将来のディレクター候補の発掘と育成、公演などに当たって案内や誘導、終演後の撤収など運営に関わるスタッフの育成を行った。
- ② 「魅力づくり」事業では、「アミーゴライブ」「落語会」「夕涼みライブ」「おいしい朝コンサート」など上質な文化芸術を鑑賞する機会を提供した。人間国宝の山本東次郎師を迎える「いるま狂言会」は昨年中止としたが、本年度は産業文化センターで収容人数を半減にして開催した。入間での狂言の灯を灯し続けることができた。染織工房は昨年と比較し約2倍の体験者があった。市民の文化活動に対する参加意欲の強さを感じた。こんな状況だからこそ、心の健康を保つため「文化芸術」の力をアミーゴが推進力となって発揮した一年であった。
- ③ 「芽づくり」事業では、「ドラマ工房」「子ども事業」などを実施した。「ドラマ工房」

は、公募市民で作る「劇団アミーゴ」の稽古を通し、公演を実施するものである。本年度も入場者を制限するなどして開催した。コロナを題材に「アマビエの季節」を上演した。三回公演は満席で好評であった。「子ども事業」では、「ハロウィン 2021」「ハッピークリスマス 2021」を行った。ともに期間を長くし、一時に多くの人が集まらないように企画した。地域のファミリーをターゲットに新しく企画したものであるが、手ごたえを感じた。

- ④ 「まちづくり」事業では、「クラフトフェア」は昨年に引き続き中止したが、「アートな春フェス」は内容を縮小して開催に漕ぎつけた。また、SNS の活用による新企画も行った。「こいのぼりイラスト」の募集や動画で「アーティストトーク」を流し会場に来られなくても作品を鑑賞できる企画など。多くの視聴者があり、今後の企画の参考となった。

「スタンプラリー」「日曜マーケット」「ハンドメイド&マルシェ」「街かどインフォ」などの事業も行った。いずれも、アミーゴを地域のシンボルとする取り組みとして新しい生活様式に合うような企画を展開した。

コロナ禍で遠くよりも住む地域に関心を寄せる傾向が強くなっている現状に、今後とも身近で楽しめる施設づくりを目指したい。

[法人独自の文化創造事業]

指定管理業務である文化創造事業のほか、長年培った事業ノウハウをもって、多くの NPO 法人独自の事業を行った。

本年度は、子どもゆめ基金の助成事業「Fun! AMIGO! 体験ひろば」を開催した。夏休み出かけられなかった子どもが多かったせいか、多くの申し込みがあり盛況であった。公民館落語会も少人数での開催ではあるが復活した。

2. アトリエ施設管理事業（指定管理事業）

①施設運営

市民ニーズに対応した窓口サービスを心がけ、利便性を考えた貸館運営を行った。

新型コロナウイルス感染症の影響は、貸館休止がなかったため昨年より少なかったが、まん延防止措置発令などに伴う事業の縮小及び活動自粛による影響は続いた。職員、ディレクターはじめ関係者の連携協力で大きな問題もなく業務が遂行できた。

②見学等対応

希望する団体に施設及び運営の説明紹介を行った。(6 団体)

コロナ感染症の影響のあった前年度より 3 件増えた。

③修繕、清掃美化

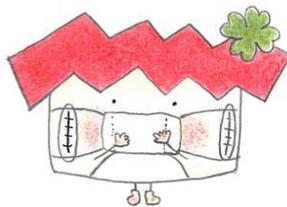
- ・来館者、利用者の安心安全の確保とアメニティー空間を確保するため、施設の修繕、清掃美化に努めた。修繕では、染工房の窓枠、東屋、の塗装、テラス前のベンチの取り換えを行った。

- ・ガーデンボランティア活動

館庭美化のため、ボランティアにより除草作業を月2回程度9回行った。その他、個々で都合をつけて除草作業を行うなどボランティアのご協力で、館庭の美化が図られた。各回6～8人の参加があった。

3. 広報活動

- ・ホームページ、フェイスブック、ツイッターなどによる情報提供を常時行った。
- ・広報紙「赤いのこぎり屋根」を5回発行した。
- ・事業チラシを10回、ミカイト[®](A5版)4回発行した。
- ・ハロウィンやクリスマス期間に子ども向けスタンプを製作しラリーを行った。
- ・キャラクター「アミちゃん」をチラシなど広報等に利用。



*このほか様々なメディア、雑誌に取り上げられた。

- ・新聞に記事が掲載される。(ふるさとづくり大賞受賞記事)
- ・織物工房体験、茶染め体験情報が情報サイト、雑誌に掲載。
- ・西武鉄道ウォーキング情報誌掲載。
- ・ミニコミ雑誌に掲載。「ぼど」に文化事業記事掲載。
- ・NHK ラジオ、FM 茶笛に放送出演。
- ・入間ケーブルテレビに事業の放映。

令和2年度 事業報告

「文化芸術で歓びと希望を感じるまちづくり」の運営理念のもと、入間市文化創造アトリエの指定管理業務及び法人独自の事業を展開した。

昨年から続く新型コロナウイルス感染症の影響でイベントの自粛や貸館の休止など、経験したことのない施設運営を行う状況となった。5事業がチケット販売後に中止となり、貸館でも4-6月で435件、1-3月で191件に休館による利用停止案内を行い、返金作業に追われた。また、新型コロナウイルス感染症を理由にキャンセルを申し出た方も51件あった。

しかしながら、この状況の中、無観客コンサートや、SNSを活用したアートプロジェクトを立ち上げるなど文化施設としての役割に果敢に挑戦した。コロナ禍の中で、文化芸術に関わる方や享受する方の気持ちに寄り添い、活動の場の提供、心のケアに努めた。結果として、多くのメディアに活動を取り上げられるなど成果があった。

1. 文化創造事業の概要

事業実施に当たっては「プラン推進会議」で計画を共有し、「ひとづくり」「魅力づくり」「芽づくり」「まちづくり」の各事業をディレクター、スタッフが協調して行った。事業計画は、単年度ではなく長期的な視点に立ち運営方針に沿って立案している。

新型コロナウイルス感染症の影響は、文化施設にとっては大打撃で、計画した事業の多くが中止、延期に見舞われた。また、開催した事業のほとんどが人数を制限し、感染防止対策を付して行った。

しかしながら、このような状況での「文化施設の存在意義」を職員スタッフ一同で考え、新規の事業を考案企画し、多くの方に文化芸術を享受していただく機会を作れたと感じる。

[指定管理における文化創造事業]

事業計画は、市民の運営を基本とするアトリエ設置条例と運営方針に基づき、各分野のディレクターと事務局が企画立案し実施した。

事業別については下記のとおりである。

- ① 「ひとづくり」事業では、文化芸術に関心を持つ方、それを支えるスタッフなどを積極的に育てていく企画を行っている。「アート学習会」では、新型コロナウイルスの影響で直接美術館など訪ねることができない状況の中、仏像をテーマに学習した。多くの受講があり、来年度もシリーズとして開催することとした。その他、将来のディレクター候補の発掘と育成、公演などに当たって案内や誘導、終演後の撤収など運営に関わるスタッフの育成を行った。
- ② 「魅力づくり」事業では、「アミーゴライブ」「落語会」「夕涼みライブ」「おいしい朝コンサート」など上質な文化芸術を鑑賞する機会を提供した。人間国宝の山本東次郎師を迎える「いるま狂言会」は残念ながら中止としたが、若手狂言師による「三人会」を開催し、入間での狂言の灯を灯し続けることができた。地域産業である染織体験工房も約半年閉館状態であったが、その間スタッフによるマスクプロジェクトや草木染植物の栽培など運営準備や研修を実施した。魅力あるアミーゴ、入間をアピールするための基礎作りができた。

③ 「芽づくり」事業では、「ドラマ工房」「アート事業」などを実施した。「ドラマ工房」は、公募市民で作る「劇団アミーゴ」の稽古を通し、公演を実施するものであるが、昨年度コロナウイルスの影響で本公演「衣海」は中止となった。本年度は、入場者を半数にするなどして開催することができた。「アート事業」では、大人対象の「アート講座」で、色紙によるコラージュを開催した。

④ 「まちづくり」事業では、「アートな春フェス」「クラフトフェア」など不特定多数の参加者が見込まれる企画は開催を断念した。

施設の貸館停止の期間、SNSを活用した「アマビエアートプロジェクト」やケーブルテレビと協力し、無観客での音楽、演芸の収録を放映するなどの事業を行った。「アマビエアートプロジェクト」は、疫病退散を祈念してアマビエのイラストを募集し展示するもので、海外からの応募も含め189点と反響が大きかった。

また、マスク不足を解消するために、アミーゴの織物工房のノウハウを活用した「マスクプロジェクト」は、入間織物や手ぬぐいを利用し製作した。新聞各社で取り上げられ、アミーゴ、入間市の広報にも役立った。

コロナ禍で、家族のこと、遠くよりも住む地域に関心を寄せる傾向が強くなっている現状に、アミーゴでもスタンプラリー、ポタリングガイド製作、街かどインフォ（施設紹介）など身近で楽しめる施設づくりを目指した事業を行った。

【法人独自の文化創造事業】

指定管理業務である文化創造事業のほか、長年培った事業ノウハウをもって、多くのNPO法人独自の事業を行った。

本年度は、コロナ感染症の影響で「AMIGO!ハロウィン」、黒須公民館落語会のみを行った。

毎年行っている学校対象事業、子どもゆめ基金の助成事業「Fun! AMIGO! 体験ひろば」は中止とした。

2. アトリエ施設管理事業（指定管理事業）

①施設運営

市民ニーズに対応した窓口サービスを心がけ、利便性を考えた貸館運営を行った。

4～6月及び1～3月は、コロナウイルス感染症拡大の影響により事業の中止や貸館キャンセルなどが発生し、利用ができない状態が続いた。事務作業面では、窓口対応や返金作業に追われたが、職員、ディレクターはじめ関係者の連携協力で大きな問題もなく業務が遂行できた。

②見学等対応

希望する団体に施設及び運営の説明紹介を行った。（3団体）

コロナウイルス感染症の影響で見学者、視察者は少なかった。

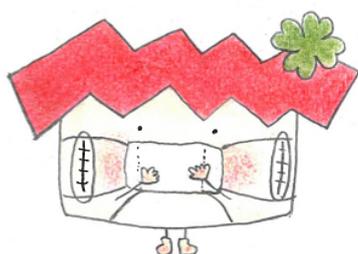
③修繕、清掃美化

- ・来館者、利用者の安心安全の確保とアメニティー空間を確保するため、施設の修繕、清掃美化に努めた。修繕では、テラス、ギャラリー、コテージ、パティオの塗装を主に行った。
- ・ガーデンボランティア活動

館庭美化のため、ボランティアにより除草作業を月2回程度10回行った。その他、個々で都合をつけて除草作業を行うなどボランティアのご協力で、館庭の美化が図られた。コロナウイルス感染症の感染防止のため、6月までは活動を控えたが、各回6~8人の参加があった。

3. 広報活動

- ・ホームページ、フェイスブック、ツイッターなどによる情報提供を常時行った。
- ・広報紙「赤いのこぎり屋根」を5回発行した。
- ・事業チラシを8回、新聞折込みチラシ2回、ミガド(A5版)3回発行した。
- ・子ども用スタンプラリーを考案、スタンプを製作した。
- ・キャラクター「アミちゃん」をチラシなど広報等に利用。



*このほか様々なメディア、雑誌に取り上げられた。

- ・週刊ポストに産業歴史建物として特集記事に掲載。
- ・新聞に記事が掲載。(マスクプロジェクト、アマビエアートプロジェクト)
- ・NHK テレビでアマビエアートプロジェクトが紹介された。
- ・織物工房体験、茶染め体験情報が情報サイト、雑誌に掲載。
- ・西武鉄道ウォーキング情報誌掲載。
- ・ミニコミ雑誌に掲載。「ぼど」に文化事業記事掲載。

4. 各種会議の開催

コロナ感染症の拡大防止という観点から、各種会議は制限して開催した。

総会(書面表決・委任状による開催)、理事会(1回リアル、2回書面表決)、プラン推進会議(6回)開催した。評議員会、全体会議、会員交流会、会員研修会は中止とした。

令和元年度 事業報告

「文化芸術で歓びと希望を感じるまちづくり」の運営理念のもと、入間市文化創造アトリエの指定管理業務及び法人独自の事業を展開した。

しかしながら今年度、夏は強風で夏フェスタの出店が、秋は台風 19 号でクラフトフェアが中止となり、3 月には新型コロナウイルス感染症の拡大防止によるイベント自粛の影響で、7 事業が中止となった。その一つ一つの事業は、ディレクターはじめスタッフの思いと共にアーティストと内容を練り込んで企画したもので、とても無念な思いであった。来年度以降、必ず実現できるよう計画したい。

1. 文化創造事業の概要

事業実施に当たっては「プラン推進会議」で計画を共有し、「ひとづくり」「魅力づくり」「芽づくり」「まちづくり」の各事業をディレクター、スタッフが協調して行った。事業計画は、単年度ではなく長期的な視点に立ち運営方針に沿って立案している。事業は、気象状況や新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかったものもあるが、新規の事業も加わり多くの方に文化芸術を享受していただけたと思う。

また、埼玉県が推進する、2020 年以降を見据え次世代に誇れるレガシーの創出に資する文化プログラム「beyond2020 プログラム」の認証に対応し、「アートな春フェス 2019」事業を申請し受理された。国、県の方針に沿い積極的に今後も「beyond2020 プログラム」に参加していきたい。

【指定管理における文化創造事業】

事業計画は、市民の運営を基本とするアトリエ設置条例と運営方針に基づき、各分野のディレクターと事務局が企画立案し実施した。

事業別については下記のとおりである。

①「ひとづくり」事業では、文化芸術に関心を持つ方、それを支えるスタッフなどを積極的に育てていく企画を行っている。「アート散歩」では、直接美術館などを訪ね、アートに関する歴史や鑑賞法を学ぶという企画で、本年は平塚市美術館と町田市立国際版画美術館を訪問した。その他、将来のディレクター候補の発掘と育成、公演などに当たって案内や誘導、終演後の撤収など運営に関わるスタッフの育成を行った。

②「魅力づくり」事業では、「のこぎり屋根の音楽会～アフターコンサート～」で気軽な音楽機会を提供し、「アミーゴライブ」「落語会」「夕涼みライブ」「おいしい朝コンサート」など上質な文化芸術を鑑賞する機会を提供してきた。人間国宝の山本東次郎師を迎える「いるま狂言会」は 18 回を数えた。地域産業である染織体験工房も継続して実施した。魅力あるアミーゴ、入間をアピールすることができた。

③「芽づくり」事業では、「ドラマ工房」「アート事業」などを実施した。「ドラマ工房」は、公募市民で作る「劇団アミーゴ」の稽古を通し、入間市博物館で「加治氏の理」を上演したほか、中学生の授業の一環として織物産業をテーマに 10min シアターの公演を行った。残念ながらコロナウイルスの影響で本公演「衣海」は来年度に延期となった。「アート事業」では、大人対象の「アート講座」、子ども対象の「遊び場アートスタジオ」を実施した。

④「まちづくり」事業では、文化芸術を通じた地域との関係づくりを重視して「アートな春フェス」を開催した。6度目の取り組みで、プロのアーティストがホールや館庭を利用し展示とワークショップを行い、アミーゴの春をアートで楽しんだ。やはり館庭を利用し、毎年多くの来場者で賑わう「クラフトフェア」は、残念ながら台風19号の影響で中止となった。その他、パートナー事業として地元企業と連携したコンサートや落語会を開催した。今後も他団体との連携で文化芸術の振興と社会貢献活動を推進していきたい。

[法人独自の文化創造事業]

指定管理業務である文化創造事業のほか、長年培った事業ノウハウをもって、多くのNPO法人独自の事業を行った。

学校対象に「古典芸能鑑賞会(箏&尺八)」、「織物とアミーゴの歴史学習会」を開催。子ども対象に子どもゆめ基金の助成を受けた「Fun! AMIGO! 体験ひろば」「アミーゴハロウィン」、埼玉県文化振興基金の助成で「声優体験 ちびまる子ちゃんのアフレコをやってみよう」を行った。

また、入間市役所ロビーコンサートや入間市観光協会と「駅前コンサート~TastyなXmasコンサート~」事業を行い成果があった。

その他、「落語会」「コンサート」などアウトリーチ事業、北中野地区敬老会、西武5区敬老会の支援、埼玉県西部地域振興センター主催のスタンプラリー参加、埼玉県芸術文化ふるさと交流フェア参加など多彩に活動を行った。

残念ながら、3月に3公民館で行う予定であった「公民館落語会」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となった。

2. アトリエ施設管理事業（指定管理事業）

①施設運営

市民ニーズに対応した窓口サービスを心がけ、利便性を考えた貸館運営を行った。

3月は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により事業の中止や貸館キャンセルなどが発生し、多くのお客様に迷惑をかけた。また、そのための事務作業や窓口対応に追われたが、職員、ディレクターはじめ関係者の連携協力で大きな問題もなく業務が遂行できた。

②見学等対応

希望する団体に施設及び運営の説明紹介を行った。(8団体)

③修繕、清掃美化

・来館者、利用者の安心安全の確保とアメニティー空間を確保するため、施設の修繕、清掃美化に努めた。

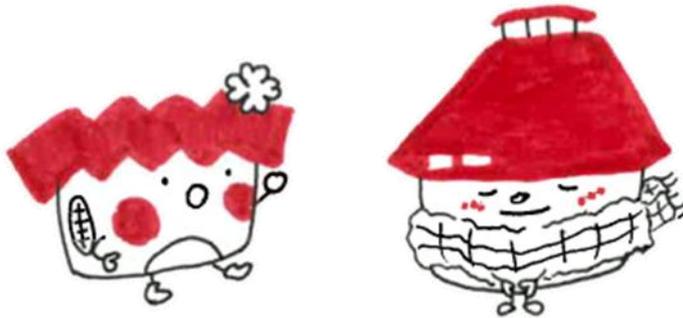
・ガーデンボランティア活動

館庭美化のため、ボランティアにより除草作業を春から秋にかけて月2回程度11回行った。その他、個々で都合をつけて除草作業を行うなどボランティアの方のご協力で、館庭の美化が図られた。

3. 広報活動

- ・ホームページ、フェイスブック、ツイッターなどによる情報提供を常時行った。
- ・広報紙「赤いのこぎり屋根」を5回発行した。
- ・事業チラシを8回、新聞折込みチラシ2回、ミガイト(A5版)4回発行した。

- ・子ども用スタンプラリーを考案、スタンプを製作した。
- ・キャラクター「アミちゃん」「スタジオくん」を作成し、ポストカードなど、広報等に利用。



*このほか様々なメディア、雑誌に取り上げられた。

- ・冊子「東京建物遺産さんぽ」(出版(株)エクスレッジ)に産業・近代化遺産 40 の一つとして掲載。
- ・新聞に記事が掲載。
- ・織物工房体験、茶染め体験情報が情報サイト、雑誌に掲載。
(県 Facebook、ことりっぶ入間さんぽ、るるぶ埼玉)
- ・西武鉄道ウォーキング情報誌掲載。
- ・ミニコミ雑誌に掲載。「ぽど」に文化事業記事掲載。 "

4. 各種会議の開催

総会、理事会、プラン推進会議、評議員会のほかアミーゴ事業の中長期計画を考える全体会議を開催した。

5. その他の活動

①交流会の開催

会員、スタッフの親睦を図り、情報交換の場として交流会を2回(5/21、1/14)行った。

②研修会等の開催と参加

文化創造事業及び施設管理運営の更なる向上を目指して、各種研修を行った。

7月30日 ~31日	火水	(財)地域創造が主催する研修会へ理事監事・事務局が参加した。文化ホールの現状に関するシンポジウム、アーティストのプレゼンテーションに参加した。(4人)
9月12日	木	スタッフの研修で秩父宮記念市民会館へホール見学に行った。担当職員から施設の案内と事業運営などについてディスカッションした。(参加スタッフ26人)
11月24日	日	埼玉県芸術文化祭30周年記念シンポジウム(埼玉県教育委員会主催)に参加。衛紀生氏(可児市文化会館館長)の講演「芸術文化の社会的役割」とパネルディスカッション「若い世代の成長に芸術文化が寄与できること」に参加。(1人)

③ボランティアの受け入れ

大妻女子大学児童学科の学生をアミーゴの子ども対象事業「8/24Fun!AMIGO!科学館&音楽館」にボランティアとして受け入れた。(3人)

平成30年度 事業報告

「文化芸術で歓びと希望を感じるまちづくり」の運営理念のもと、法人として受託した入間市文化創造アトリエの指定管理業務及び法人独自の事業を展開した。

1. 文化創造事業

事業実施に当たっては「プラン推進会議」で計画を共有し、「ひとづくり」「魅力づくり」「芽づくり」「まちづくり」の各事業をディレクター、スタッフが協調して行った。事業計画は、単年度ではなく長期的な視点に立ち運営方針に沿って立案している。事業は、計画通りに実施したほか、新規の事業も加わり多くの方に文化芸術を享受していただけたと思う。

また、埼玉県が推進する、2020年以降を見据え次世代に誇れるレガシーの創出に資する文化プログラム「beyond2020プログラム」の認証に対応し、「アートな春フェス2018」、「雅楽をたのしむ」事業を申請し受理された。

当法人としても、国、県の方針に沿い積極的に今後も「beyond2020プログラム」に参加していく。

[指定管理における文化創造事業]

事業計画は、市民の運営を基本とするアトリエ設置条例と運営方針に基づき、各分野のディレクターと事務局が企画立案し実施した。

事業別については下記のとおりである。

- ① 「ひとづくり」事業では、文化芸術に関心を持つ方、それを支えるスタッフなどを積極的に育てていく企画を行っている。「アート散歩」では、アートに関する歴史や鑑賞を直接美術館などを訪ね学ぶという企画で、本年は熱海のMOA美術館と起雲閣を訪問した。その他、将来のディレクター候補の発掘と育成、公演などに当たって案内や誘導、終演後の撤収など運営に関わるスタッフの育成を行った。
- ② 「魅力づくり」事業では、「のこぎり屋根の音楽会～アフターコンサート～」で気軽な音楽機会を提供し、「アミーゴライブ」「落語会」「雅楽公演」「夕涼みライブ」「西洋館コンサート」など上質な文化芸術を鑑賞する機会を提供してきた。サロン洋を活用した「アートサロン展」は2回開催した。地域産業である染織体験工房も継続して実施した。魅力あるアミーゴ、入間をアピールすることができた。
- ③ 「芽づくり」事業では、「ドラマ工房」「アート事業」などを実施した。「ドラマ工房」は、公募市民で作る「劇団アミーゴ」の稽古を通し、本公演の「ジッパ」を上演したほか、藤沢小学校創立130周年記念の公演をはじめ、中学生の授業の一環で地域の織物産業をテーマに10minシアターの公演を行った。「アート事業」では、大人対象の「アート講座」、子ども対象の「遊び場アートスタジオ」を実施した。
- ④ 「まちづくり」事業では、文化芸術を通じた地域との関係づくりを重視して「アートな春フェス」「夏フェスタ」「いるまクラフトフェア」を開催した。「クラフトフェア」

は、地域のイベントとして定着し、多くの方の来場があり、アミーゴの存在をアピールすることができ成果があった。「春フェス」は5度目の取り組みで、プロのアーティストがホールや館庭を利用し展示とワークショップを行い、アミーゴの春をアートで楽しんだ。その他、パートナー事業として地元企業の「入間ガス(株)」「所沢織物商工(協)」と連携したコンサートや落語会、入間市社会福祉協議会との連携で難聴者対象に「身体で聴く音楽会」を開催した。今後も他団体との連携で文化芸術の振興と社会貢献活動を推進していきたい。

[法人独自の文化創造事業]

指定管理業務である文化創造事業のほか、長年培った事業ノウハウをもって、多くのNPO 法人独自の事業を行った。

学校、子ども対象に「学校古典芸能鑑賞会(浪曲)」、子どもゆめ基金の助成を受けた「AMIGO! クリエーターズ」「アミーゴハロウィン」、地域の中学校の授業の一環として劇団アミーゴとともに「織物とアミーゴの歴史」の学習会を行った。また、入間市市民提案型協働事業の助成を受けて「ART な入間のまちづくりーまちかどコンサート」事業を行い成果があった。

その他、「公民館落語会」などアウトリーチ事業、西武5区の敬老会の支援などを行った。「いるま狂言会」を昨年に続き産業文化センターで開催した。

2. アトリエ施設管理事業（指定管理事業）

①市民ニーズに対応した窓口サービスを心がけ、利用率の向上に努めた。

②来館者、利用者の安心安全の確保とアメニティー空間を確保するため、施設の修繕、清掃美化に努めた。

③施設の広報を積極的に行った。HP、フェイスブック、ツイッター、新聞社、ミニコミ紙、情報サイト、ケーブルTV など。

3. 各種会議の開催

総会、理事会、プラン推進会議、評議員会のほかアミーゴ事業の中長期計画を考える全体会議を開催した。

4. その他の活動

①希望する団体に施設及び運営の説明紹介を行った。(11 団体)

②ガーデンボランティア活動。館庭美化のため、ボランティアにより除草作業を春から 秋にかけて月2回程度18回行った。その他、個々で都合をつけて除草作業を行うなどボランティアの方のご協力で、館庭の美化が図られた。

③交流会の開催

・5/21 (火) 総会終了後に会員交流会を開催。事業のプレゼンテーションを行った。

・1/15 (月) スタッフ新年交流会を開催した。

④研修会等の開催と参加

7月31日 ～8月1日	火水	(財) 地域創造が主催する研修会へ理事監事・事務局が参加した。文化ホールの現状に関するシンポジウム、アーティストのプレゼンテーションに参加した。(5名)
9月13日	木	事業開催中に想定される震災、火災などの災害に対応した実地研修「避難訓練落語会」を行った。内容は、落語会の最中に地震が発生し、スタッフの指示で非難するというもの。(参加者スタッフ28人、協力住民9人)
11月1日	木	「効果的な集客方法?を考える」広報研修会を開催した。いわき文化芸術交流館アリオス広報グループチーフの長野隆人氏を招いて行った。(16人参加)
11月16日	金	まちサポ、入間市、埼玉県共助社会づくり課主催「いるまアクティブシニア「余世与世」事業・糸で結ぶ入間・川越」に参加した。(2名) 講師：藤井美登利

⑤ 広報活動

- ・ホームページ、フェイスブック、ツイッターなどによる情報提供を常時行った。
- ・広報紙「赤いのこぎり屋根」を5回発行した。
- ・事業チラシを7回、新聞折込みチラシ2回、ミガイト(A5版)4回発行した。
- ・施設紹介パンフを新しく編集発行した。
- ・小学生低学年用のクイズを取り入れたパンフも製作。
- ・キャラクター「アミちゃん」を作成し、広報に利用。



*このほか様々なメディアに取り上げられた。

- ・新聞に記事が掲載。
- ・織物工房体験、茶染め体験情報が情報サイト、雑誌に掲載。(県 Facebook、MetroWalker)
- ・西武鉄道ウォーキング情報誌掲載。
- ・ミニコミ雑誌に掲載。「ぱど」に文化事業記事掲載。
- ・企業のパンフレットに紹介記事が掲載。

平成29年度 事業報告

「文化芸術で歓びと希望を感じるまちづくり」の運営理念のもと、法人として受託した入間市文化創造アトリエの指定管理業務及び法人独自の事業を展開した。

1. 文化創造事業

事業実施に当たっては「プラン推進会議」で計画を共有し、「ひとづくり」「魅力づくり」「芽づくり」「まちづくり」の各事業をディレクター、スタッフが協調して行った。事業計画は、単年度ではなく長期的な視点で立案ことにしている。事業は、計画通りに実施したほか、新規の事業も加わり多くの方に文化芸術を享受していただけたと思う。

また、埼玉県が政府の推進する文化プログラム「beyond2020 プログラム」の認証申請の受付を開始したことに対応し、「オトハコリズムを連れてやってくる!」、「障害者アートフェスティバル」事業を申請し受理された。

「beyond2020 プログラム」は、2020年以降を見据え、日本の強みである地域性豊かで多様性に富んだ文化を活かし、成熟社会にふさわしい次世代に誇れるレガシーの創出に資する文化プログラムとして認証するものです。

当法人としても、国、県の方針に沿い積極的に今後も「beyond2020 プログラム」に参加していく。

[指定管理における文化創造事業]

事業計画は、市民の運営を基本とするアトリエ設置条例と運営方針に基づき、各分野のディレクターと事務局が企画立案し実施した。

事業別については下記のとおりである。

- ① 「ひとづくり」事業では、文化芸術に関心を持つ方、それを支えるスタッフなどを積極的に育てていく企画を行っている。将来のディレクター候補の発掘と育成、公演などに当たって案内や誘導、終演後の撤収など運営に関わるスタッフの育成を行った。
- ② 「魅力づくり」事業では、「のこぎり屋根の音楽会～アフターコンサート～」で気軽な音楽機会を提供し、「アミーゴライブ」「落語会」「雅楽公演」「夕涼みライブ」「バースデーライブ」「西洋館コンサート」など上質な文化芸術を鑑賞する機会を提供してきた。サロン洋を活用した「アートサロン展」は3回開催した。地域産業である染織体験工房も継続して実施した。魅力あるアミーゴ、入間をアピールすることができた。
- ③ 「芽づくり」事業では、「ドラマ工房」「アート事業」などを実施した。「ドラマ工房」は、公募市民で作る「劇団アミーゴ」の稽古を通し、本公演は入間の偉人を取り上げた「青き繭の記」「加治氏の理」の2本を上演したほか、博物館アリットでの公演をはじめ、中学生の授業の一環で地域の織物産業をテーマに10minシアターの公演を行った。「アート事業」では、大人対象の「アート講座」、子ども対象の「遊び場アートスタジオ」を実施した。

- ④ 「まちづくり」事業では、文化芸術を通じた地域との関係づくりを重視して「アートな春フェス」「夏フェスタ」「いるまクラフトフェア」、埼玉県との協力で「埼玉県障害者アートフェスティバル」(Beyond2020 プログラム)を開催した。「クラフトフェア」は、地域のイベントとして定着し、多くの方の来場があり、アミーゴの存在をアピールすることができ成果があった。「春フェス」は4度目の取り組みで、プロのアーティストがホールや館庭を利用し展示とワークショップを行い、アミーゴの春をアートで楽しんだ。「障害者アートフェスティバル」は、長期間にわたる開催で、県障害者福祉課と連携し、他団体との連携の経験と実績を積むことができ、今後の事業運営の大きなステップとなった。

[法人独自の文化創造事業]

指定管理業務である文化創造事業のほか、長年培った事業ノウハウをもって、多くのNPO 法人独自の事業を行った。

学校、子ども対象に「学校古典芸能鑑賞会(狂言)」、子どもゆめ基金の助成を受けた「AMIGO! クリエーターズ」「アミーゴハロウィン」、県の文化振興基金の助成を受けた「オトハコリズムを連れてやってくる!」(Beyond2020 プログラム)、地域の中学校の授業の一環として劇団アミーゴとともに「織物とアミーゴの歴史」の学習会を行った。また、「公民館落語会」などアウトリーチ事業、西武5区の敬老会の支援などを行った。「いるま狂言会」を昨年引き続き産業文化センターで開催した。

2. アトリエ施設管理事業（指定管理事業）

- ①市民ニーズに対応した窓口サービスを心がけ、利用率の向上に努めた。
- ②来館者、利用者の安心安全の確保とアメニティー空間を確保するため、施設の修繕、清掃美化に努めた。
- ③施設の広報を積極的に行った。HP,フェイスブック、ツイッター、新聞社、ミコミ紙、情報サイト、ケーブルTV など。

3. 各種会議の開催

総会、理事会、プラン推進会議、評議員会のほかアミーゴ事業の中長期計画を考える全体会議を開催した。

4. その他の活動

- ①希望する団体に施設及び運営の説明紹介を行った。
- ②ガーデンボランティア活動。館庭美化のため、ボランティアにより除草作業を春から秋にかけて月2回程度11回行った。その他、個々で都合をつけて除草作業を行うなどボランティアの方のご協力で、館庭の美化が図られた。
- ③交流会の開催
 - ・5/23(火) 総会終了後に会員交流会を開催。事業のプレゼンテーションを行った。
 - ・1/15(月) スタッフ新年交流会を開催した。

④研修会等の開催と参加

- ・ 9/14（木）「美味しいコーヒーの入れ方」などスタッフ研修会を実施した。（26名参加）
- ・ 8/1～3 （財）地域創造研修会へ7名の理事監事・事務局が参加した。
- ・ 1/13(土) 埼玉県共助社会づくり課主催「共助コン・まちづくりミニシンポジウム」
（ウエスタ川越）に参加（2名）
- ・ 3/15（木）埼玉県文化振興課主催「ART でまちづくり交流会 in 所沢」に参加。（2名）

⑤広報活動

- ・ ホームページ、フェイスブック、ツイッターなどによる情報提供を常時行っている。
- ・ 広報紙「赤いのこぎり屋根」を5回発行した。

*このほか様々なメディアに取り上げられました。

- ・ 新聞に記事が掲載。
- ・ 情報サイトに掲載。織物工房体験情報。
- ・ 西武鉄道ウォーキング情報誌掲載。
- ・ ミニコミ雑誌に掲載。「ぼど」に文化事業記事掲載。
- ・ 住宅企業のパンフレットに紹介記事。
- ・ テレビ、映画撮影で利用とクレジット。
- ・ 館長が「埼玉県地域デビュー楽しみ隊」隊員としてメディア広報。

平成28年度 事業報告

平成28年度も、「文化芸術で歓びと希望を感じるまちづくり」を理念に、法人として受託した入間市文化創造アトリエの指定管理業務及び法人独自の事業を展開した。

1. 文化創造事業

事業実施に当たっては「プラン推進会議」で計画を共有し、「ひとづくり」「魅力づくり」「芽づくり」「まちづくり」の各事業をディレクター、スタッフが協調して行った。事業計画は、単年度ではなく長期的な視点で立案ことにしている。事業は、計画通りに実施したほか、新規の事業も加わり多くの方に文化芸術を享受していただけたと思う。

【指定管理における文化創造事業】

市民の運営を基本とするアトリエ設置条例に基づき、事業計画は、各分野のディレクターと事務局が内容、時期などを立案していった。

事業別については下記のとおりである。

- ① 「ひとづくり」事業では、文化芸術に関心を持つ方、それを支えるスタッフなどを積極的に育てていく企画を行っている。「アート散歩」では、アートに関する歴史や鑑賞を直接美術館などを訪ね学ぶという企画で、本年は山梨の美術館と横浜の歴史建物を訪問した。その他、将来のディレクター候補の発掘と育成、公演などに当たって案内や誘導、終演後の撤収など運営に関わるスタッフの育成を行った。
- ② 「魅力づくり」事業では、「のこぎり屋根の音楽会～アフターコンサート～」で気軽な音楽機会を提供し、「アミーゴライブ」「落語会」「夕涼みライブ」「バースデーライブ」など上質な文化芸術を鑑賞する機会を提供してきた。サロン洋を活用した「アートサロン展」は3回開催した。地域産業である染織体験工房も継続して実施した。魅力あるアミーゴ、入間をアピールすることができた。
- ③ 「芽づくり」事業では、「ドラマ工房」「アート事業」などを実施した。「ドラマ工房」は、公募市民で作る「劇団アミーゴ」の稽古を通し、市制施行50周年記念式典や博物館アリットでの公演をはじめ、中学生の授業の一環で地域の織物産業をテーマに10minシアターの公演を行った。「アート事業」では、大人対象の「アート講座」、子ども対象の「遊び場アートスタジオ」を実施した。
- ④ 「まちづくり」事業では、文化芸術を通じた地域との関係づくりを重視して「アートな春フェス」「夏フェスタ」「クラフトフェア」を開催した。特に、「クラフトフェア」は、地域のイベントとして定着し、多くの方の来場があり、アミーゴの存在をアピールすることができ成果があった。「春フェス」は3度目の取り組みで、プロのアーティストがホールや館庭を利用し展示とワークショップを行い、アミーゴの春をアートで楽しんだ。

[法人独自の文化創造事業]

指定管理業務である文化創造事業のほか、長年培った事業ノウハウをもって、多くのNPO 法人独自の事業を行った。

アミーゴの施設は織物産業と埼玉県繊維工業試験場をルーツとしており、その歴史と遺産を大切にし、次世代に伝えることで観光やまちづくりにつなげていくことが重要だと考えている。本年度は、そのことを意識し、埼玉県 NPO 基金事業の助成金を得て「絹と木綿のものがたりフォーラム」を開催した。繊維産業でネットワークとコミュニティづくりを行い成果があった。

学校、子ども対象に「学校古典芸能鑑賞会(狂言・落語/三味線)」、子どもゆめ基金の助成を受けた「AMIGO! クリエーターズ」、県の文化振興基金の助成を受けた「こんにゃく座公演&ワークショップ」、地域の中学校の授業の一環として劇団アミーゴとともに「織物とアミーゴの歴史」の学習会を行った。また、「公民館落語会」などアウトリーチ事業、西武5区の敬老会の支援などを行った。「狂言会」は市制施行 50 周年を記念し、産業文化センターで開催した。

2. アトリエ施設管理事業（指定管理事業）

- ①市民ニーズに対応した窓口サービスを心がけ、利用率の向上に努めた。
- ②来館者、利用者の安心安全の確保とアメニティー空間を確保するため、施設の修繕、清掃美化に努めた。
- ③施設の広報を積極的に行った。HP、フェイスブック、ツイッター、新聞社、ミコミ紙、情報サイト、ケーブルTV など。

3. 各種会議の開催

総会、理事会、プラン推進会議、評議員会のほかアミーゴ事業の中長期計画を考える全体会議を開催した。(役員、ディレクター、サブディレクター、評議員 22 名参加) (7/16㊦)

4. その他の活動

- ①希望する団体に施設及び運営の説明紹介を行った。
- ②ガーデンボランティア活動。館庭美化のため、ボランティアにより除草作業を春から秋にかけて月 2 回程度 13 回行った。
- ③交流会の開催
 - ・ 5/24 (火) 総会終了後に会員交流会を開催。事業のプレゼンテーションを行った。
 - ・ 1/16 (月) スタッフ新年交流会を開催した。
- ④研修会等の開催と参加
 - ・ 9/14 (木) 鎌倉 (鎌倉文学館、鎌倉能楽堂) へスタッフ研修会を実施した。(25 名参加)
 - ・ 8/2~4 (財) 地域創造研修会へ 7 名の理事監事・事務局が参加した。
 - ・ 1/30 (月) 埼玉県共助社会づくり課主催「共助コン」～一人ひとりが共助仕掛人～に参加。(2 名)
 - ・ 3/13 (月) 埼玉県文化振興課主催「ART でまちづくり交流会 in 川越」に参加。(4

名)

⑤広報活動

- ・ホームページ、フェイスブック、ツイッターなどによる情報提供を常時行っている。
- ・広報紙「赤いのこぎり屋根」を5回発行した。
- ・(財)地域創造に定期的に記事を提供している。

*このほか様々なメディアに取り上げられました。

- ・埼玉新聞に学校狂言アトリーチと「いるま狂言会」記事が掲載される。
- ・「絹と木綿のものがたりフォーラム」関連で読売、朝日、上毛新聞に記事掲載される。
- ・情報サイトに掲載。西武鉄道お出かけサイト「ぐるっとプラス」
- ・ミニコミ雑誌に掲載。埼玉トヨペットオーナーズマガジンプリッジ 手織り工房紹介記事。住宅企業のパンフレットに紹介記事。「ぽど」に文化事業記事掲載。
- ・テレビ、映画撮影で利用とクレジット。

平成27年度 事業報告

1. 文化創造事業

文化創造事業については、市民の運営を基本とするアトリエ設置条例に基づき、文化芸術で歓びと希望を感じるまちづくりを理念に事業活動を行ってきた。

事業実施に当たっては「プラン推進会議」で計画を共有し、「ひとづくり」「魅力づくり」「芽づくり」「まちづくり」の各事業をディレクター、スタッフが協調して行った。

事業を通じ、アミーゴの施設は個性があり、他の施設では味わえない、愛着の持てる施設であることが実感できた。同時に文化施設の存在意義は、事業参加者とのコミュニケーションを通して地域に支持されることが重要であることも認識できた。本年度、コンサートが一つ出演者の体調不良で中止となった。公演は様々なリスクが伴うので、今後の課題としたい。

事業別については下記のとおりである。

[指定管理における文化創造事業]

- ① 「ひとづくり」事業では、文化芸術に関心を持つ方、それを支えるスタッフなどを積極的に育てていく企画を行っている。「アート倶楽部」では、アートに関する歴史や鑑賞法などを学ぶという企画で、本年は「モダン&レトロたてもの」をテーマに実施した。その他、将来のディレクター候補の発掘と育成、公演などに当たって案内や誘導、終演後の撤収など運営に関わるスタッフの育成を行った。
- ② 「魅力づくり」事業では、「のこぎり屋根の音楽会～アタヌンコンサート～」で気軽な音楽機会を提供し、「アミーゴライブ」「狂言会」「落語会」「清元と日本舞踊」「バースデーライブ」など上質な文化芸術を鑑賞する機会を提供してきた。サロン洋を活用した「アートサロン展」は5回開催した。地域産業である染織体験工房も継続して実施した。魅力あるアミーゴ、入間をアピールすることができた。
- ③ 「芽づくり」事業では、「ドラマ工房」「オペラ工房」「アート事業」などを実施した。「ドラマ工房」は、公募市民で作る「劇団アミーゴ」の稽古を通し、本公演2回と国際交流協会総会や中学生の授業の一環で10minシアターの公演を行った。「オペラ工房」では、公募の市民オペラ合唱団が練習と成果発表を行ったほか、プロのソリストによるオペラ・ガラコンサートに参加するなど年間を通して活動した。「アート事業」では、大人対象の「アート講座」、子ども対象の「遊び場アートスタジオ」を実施した。
- ④ 「まちづくり」事業では、文化芸術を通じた地域との関係づくりを重視して「アートの春フェス」「夏フェスタ」「クラフトフェア」を開催した。特に、「クラフトフェア」では、地域の中のアミーゴをアピールすることができ、多くの方の来場があり成果があった。「春フェス」は2度目の取り組みで、プロのアーティストがホールや館庭を利用し展示とワークショップを行い、小雨の中アミーゴの春をアートで楽しんだ。
その他、法人独自事業であるが、アウトリーチ事業として「狂言・落語の学校古典芸能鑑賞会」「公民館落語会」などを行った。例年、多くの要望があり、アミーゴで培った事業ノウハウを他施設に提供することができた。

[法人独自の文化創造事業]

指定管理業務である文化創造事業のほか、長年培った事業ノウハウをもって、多くのNPO法人独自の事業を行った。学校、子ども対象に「学校古典芸能鑑賞会(狂言・箏/尺八)」、子どもゆめ基金の助成を受けた「アミーゴ!ハロウィン」、県の文化振興基金の助成を受けた「打楽器WS&コンサート」、地域の中学校の授業の一環として劇団アミーゴとともに「織物とアミーゴの歴史」の学習会を行った。

本年度は、2つの助成金を得て子ども対象の事業が充実して行うことができた。

また、「公民館」などへのアウトリーチ事業、西武5区の敬老会の支援などを行った。

西武鉄道のウォーキングと協力して館庭での飲食、音楽パフォーマンスのサービスや写真展など施設紹介を行ったのをはじめ、公演時に販売コーナーを設けるなど新たに「賑わい創出事業」として、交流、憩いの場を創る事業を行った。

2. 文化創造アトリエ施設管理事業（指定管理事業）

- ① 市民ニーズに対応した窓口サービスを心がけ、利用率の向上に努めた。

※施設の利用状況は別紙

本年度は、スタジオが2ヶ月間工事のため利用できなかった。利用度が高い施設のため多くの利用者にご迷惑をかけた。

- ② 来館者、利用者の安心安全の確保とアメニティー空間を確保するため、施設の修繕、備品の補充に努めた。

3. 各種会議などの開催報告

※別紙にて報告。

※通常の会議の他、本年度はアミーゴ事業の中長期計画を考える討議会議を開催した。
(役員、ディレクター、サブディレクター、評議員22名参加) (7/16㊦)

4. その他活動報告

- ① 会員交流会の開催

・5/19(火) 総会終了後に開催。事業のプレゼンテーションを行った。

- ② アミーゴ開館15周年記念祝賀会を開催した。(2/6㊦)
- ③ 地域創造研修会へ9名の理事監事・事務局が参加した。(8/4~6)
- ④ 広報紙「赤いのこぎり屋根」を5回発行した。
- ⑤ 熊谷(片倉シルク記念館)、深谷(七ツ梅酒造跡地活用他)へスタッフ研修会を実施した。(9/10㊦)
- ⑥ 館庭美化のため、ガーデンボランティアによる除草作業を春から秋にかけて月2回程度行った。(ガーデンボランティア活動は別紙)
- ⑦ 希望する団体などに施設及び運営の説明を行った。(詳細は別紙)

平成26年度 事業報告

1. 文化創造事業

文化創造事業については、市民の運営を基本とするアトリエ設置条例に基づき、文化芸術で歓びと希望を感じるまちづくりを理念に事業活動を行ってきた。

事業実施に当たっては「プラン推進会議」で計画を共有し、「ひとづくり」「魅力づくり」「芽づくり」「まちづくり」の各事業をスタッフが協調して積極的に行った。

多くの事業を通じ、出演者、スタッフ、参加者が一体となっていると感じた。アミーゴの施設は個性があり、他の施設では味わえない、愛着の持てる施設であることが実感できた。同時に文化施設の存在意義は、事業参加者とのコミュニケーションを通して地域に支持されることが重要であることも認識できた。

本年度はコンサートなどの来場者がやや少なく、収入面でも減少した。事業の内容、広報、価格設定など、様々な角度から今後の対応を検討したい。

事業別については下記のとおりである。

[指定管理における文化創造事業]

- ① 「ひとづくり」事業では、文化芸術に関心を持つ方、それを支えるスタッフなどを積極的に育てていく企画を行っている。「アート倶楽部」では、アートに関する歴史や鑑賞法などを学ぶという企画で、本年は「織物と着物」をテーマに実施した。その他、将来のディレクター候補の発掘と育成、公演などに当たって案内や誘導、終演後の撤収など運営に関わるスタッフの育成を行った。
- ② 「魅力づくり」事業では、「のこぎり屋根の音楽会～アフタヌーンコンサート～」で気軽な音楽機会を提供し、「アミーゴライブ」「狂言会」「落語会」「清元のいろは」「バースデーライブ」など上質な文化芸術を鑑賞する機会を提供してきた。サロン洋を活用した「アートサロン展」は6回開催した。地域産業である染織体験工房も継続して実施した。魅力あるアミーゴ、入間をアピールすることができた。
- ③ 「芽づくり」事業では、「ドラマ工房」「オペラ工房」「アート事業」などを実施した。「ドラマ工房」は、公募市民で作る「劇団アミーゴ」の稽古を通じ、10minシアターで国際交流協会や小中学生の授業の一環として公演を行った。オペラ工房は、市民オペラ合唱団とプロのソリストによるオペラ「パリアッチ」を上演し好評であった。アート事業では、大人対象の「アート講座」、子ども対象の「遊び場アートスタジオ」を実施した。
- ④ 「まちづくり」事業では、文化芸術を通じた地域との関係づくりを重視して「春フェス」「夏フェスタ」「秋まつり」を開催した。特に、「秋まつり」では、地域の中のアミーゴをアピールすることができ、多くの方の来場があり成果があった。「春フェス」は初めての取り組みで、11人のアーティストがホールや館庭を利用し展示とワークショップを行った。アミーゴの春をアートで楽しんだ。
その他、法人独自事業であるが、アウトリーチ事業として「狂言・落語の学校古典芸能鑑賞会」「公民館落語会」などを行った。例年、多くの要望があり、アミーゴで培った事業ノウハウを他施設に提供することができた。

[法人独自の文化創造事業]

指定管理業務である文化創造事業のほか、多くの NPO 法人独自の事業を行った。アウトリーチ事業として学校・公民館への狂言、落語、コンサート、NPO 団体への演劇などの鑑賞会を開催した。また、地域内の小中学校生徒がアミーゴに来て地域の歴史を劇団アミーゴの演劇を交え学んだ。アミーゴらしい手法で行うことができ好評であった。

2. 文化創造アトリエ施設管理事業（指定管理事業）

① 市民ニーズに対応した窓口サービスを心がけ、利用率の向上に努めた。

※施設の利用状況は別紙

② 来館者、利用者の安心安全の確保とアメニティー空間を確保するため、施設の修繕、備品の補充に努めた。

また、館庭美化のため、ガーデンボランティアによる除草作業を春から秋にかけて月2回程度行った。(ガーデンボランティア活動は別紙)

③ 希望する団体などに施設及び運営の説明を行った。(詳細は別紙)

3. 各種会議などの開催報告

※別紙にて報告。

4. その他活動報告

① 会員交流会の開催

・ 5/20 (火) 総会終了後に開催。事業のプレゼンテーションを行った。

② 役員、ディレクター、サブディレクター懇談会を開催した。(1/20)

③ 地域創造研修会へ7名の理事監事・事務局が参加した。(8/5～7)

④ 広報紙「赤いのこぎり屋根」を5回発行した。

⑤ 軽井沢方面へスタッフ研修会を実施した。(9/3)

平成25年度 事業報告

1. 文化創造事業

文化創造事業については、市民の運営を基本とするアトリエ設置条例に基づき、文化芸術で歓びと希望を感じるまちづくりを理念に事業活動を行ってきた。

事業実施に当たっては「プラン推進会議」で計画を共有し、「ひとづくり」「魅力づくり」「芽づくり」「まちづくり」の各事業をスタッフが協調して積極的に行った。

多くの事業を通じ、アミーゴの施設は個性があり、出演者、スタッフ、来館者との一体感があることで、他の施設では味わえない、愛着の持てる施設であることが実感できた。また、同時に文化施設の存在意義は、事業参加者とのコミュニケーションを通して地域に支持されることが重要であることも認識できた。本年度は台風や雪などで事業が中止や延期になるなど文化事業の実施に関わるリスクも表面化した。今後の対応を検討したい。

下記の各事業を行なった。事業の詳細については別紙を参照。

[指定管理における文化創造事業]

- ① 「ひとづくり」事業では、文化芸術に関心を持つ方、それを支えるスタッフなどを積極的に育てていく企画を行っている。「アート倶楽部」では、アートに関する歴史や鑑賞法などを学ぶという企画で、本年は「アル・ヌーヴォーとアル・デコ」をテーマに実施した。その他、将来のディレクター候補の発掘と育成、公演などに当たって案内や誘導、終演後の撤収など運営に関わるスタッフの育成を行った。
- ② 「魅力づくり」事業では、「のこぎり屋根の音楽会～アフタヌーンコンサート～」で気軽な音楽機会を提供し、「アミーゴライブ」「狂言会」「落語会」「バースデーライブ」など上質な文化芸術を鑑賞する機会を提供してきた。サロン洋を活用した「アートサロン展」は4回開催した。地域産業である染織体験工房も継続して実施した。魅力あるアミーゴ、入間をアピールすることができた。
- ③ 「芽づくり」事業では、「ドラマ工房」「アート事業」などを実施した。「ドラマ工房」は、公募市民で作る「劇団アミーゴ」の稽古を通じ、11月の本公演「春夏秋冬 入間様」のほか、10min シアターで国際交流協会や小中学生の授業の一環として公演を行った。アート事業では、大人対象の「アート講座」、子ども対象の「遊び場アートスタジオ」を実施した。
- ④ 「まちづくり」事業では、文化芸術を通じた地域との関係づくりを重視して「夏フェスタ」「秋まつり」を開催した。特に、「秋まつり」では、地域の中のアミーゴをアピールすることができ、多くの方の来場があり成果があった。

また、「小鹿野歌舞伎」の公演と入間市内の高倉郷土芸能保存会の芸能（地芝居）の披露を行なった。公演後に交流会も行い、地域間の文化交流が図られた。

その他、法人独自事業であるが、アウトリーチ事業として「狂言・落語の学校古典芸能鑑賞会」「公民館落語会」などを行った。例年、多くの要望があり、アミーゴで培った事業ノウハウを他施設に提供することができた。

[法人独自の文化創造事業]

指定管理業務である文化創造事業のほか、多くの NPO 法人独自の事業を行った。アウトリーチ事業として学校・公民館への狂言、落語、コンサート、NPO 団体への演劇などの鑑賞会を開催した。また、地域内の小中学校生徒がアミーゴに来て地域の歴史を劇団アミーゴの演劇を交え学んだ。アミーゴらしい手法で行うことができ好評であった。

2. 文化創造アトリエ施設管理事業（指定管理事業）

- ① 市民ニーズに対応した窓口サービスを心がけ、利用率の向上に努めた。
（施設の利用状況は別紙）
- ② 来館者、利用者の安心安全の確保とアメニティー空間を確保するため、施設の修繕、備品の補充に努めた。
また、館庭美化のため、ガーデンボランティアによる除草作業を春から秋にかけて月 2 回程度行った。（ガーデンボランティア活動は別紙）
- ③ 希望する団体などに施設及び運営の説明を行った。（詳細は別紙）
- ④ 利用者アンケート調査の実施（平成 25 年 11,12 月実施、45 人回答）

3. 各種会議などの開催報告

※別紙にて報告。

4. その他活動報告

- ① 会員交流会の開催
2 回の交流会を実施した。
 - ・ 5/21（火）総会終了後に開催。事業のプレゼンテーションを行った。
 - ・ 12/13（金）I Labbri のミニコンサートの鑑賞と共に交流会を行った。
- ② 広報紙「赤いのこぎり屋根」を 5 回発行した。
- ③ 山梨方面へスタッフ研修会を実施した。（9/4）

平成24年度 事業報告

1. 文化創造事業

文化創造事業については、市民の運営を基本とするアトリエ設置条例に基づき、市民力で感性豊かな文化芸術都市づくりを理念に事業活動を行ってきた。

事業実施に当たっては「プラン推進会議」で計画を共有し、スタッフが協調して積極的に事業を行った。

多くの事業を通じ、アミーゴの施設は個性があり、他の施設では味わえない、出演者、スタッフ、来館者との一体感があることで、来館者に愛着の持てる施設であることが実感できた。また、同時に文化施設の存在意義は、事業参加者とのコミュニケーションを通して地域に支持されることが重要であることも認識できた。本年度も多面的な事業が実施でき成果があったと感じる。

[指定管理における文化創造事業]

- ① 「ひとづくり」事業では、文化芸術に関心を持つ方、それを支えるスタッフなどを積極的に育てていく企画を行っている。「アート倶楽部」では、アートに関する歴史や鑑賞法などを学ぶという企画で、本年は「浮世絵」をテーマに実施した。その他、将来のディレクター候補の発掘と育成、公演などに当たって案内や誘導、終演後の撤収など運営に関わるスタッフの育成を行った。
- ② 「魅力づくり」事業では、「のこぎり屋根の音楽会～アフターコンサート～」で気軽な音楽機会を提供し、「アミーゴライブ」「アミーゴ狂言会」「落語会」「中井貴恵音語り」など上質な文化芸術を鑑賞する機会を提供してきた。サロン洋を活用した「アートサロン展」は5回開催した。地域内の武蔵野音楽大学との連携事業、地域産業である染織体験工房も継続して実施した。魅力あるアミーゴ、入間をアピールすることができた。
- ③ 「芽づくり」事業では、継続事業として「オペラ工房」、「ドラマ工房」などを実施した。オペラ工房は、プロのソリストを交え市民オペラ合唱団によるオペレッタ「メリー・ウィドウ」を上演した。「ドラマ工房」は、年間の稽古を通じ、9月の本公演「絆ありがとう」はじめ10minシアター等様々な公演を行った。将来の文化の担い手である子ども対象の事業として、「わくわく体験クラブ アミーゴキッズ」や「遊び場アートスタジオ」を実施した。
- ④ 「まちづくり」事業では、文化芸術を通じた地域との関係づくりを重視して「夏フェスタ」「秋まつり」を開催した。特に、「秋まつり」では、地域の中のアミーゴをアピールすることができ、多くの方の来場があり成果があった。

その他、法人独自事業であるが、アウトリーチ事業として「狂言・落語の学校古典芸能鑑賞会」「公民館落語会」などを行った。例年、多くの要望があり、アミーゴで培った事業ノウハウを他施設に提供することができた。

[法人独自の文化創造事業]

指定管理業務としての文化創造事業のほか、多くの NPO 法人独自の事業を行った。子どもゆめ基金の助成を得て実施したアミーゴキッズ事業や学校・公民館、企業などへの狂言、落語、コンサート、演劇のアウトリーチ事業などを開催した。また、西武地区の敬老会をアミーゴで開催し、アトラクションで大道芸を呼ぶなどの連携をした。小中学校生徒がアミーゴに来て地域の歴史を劇団アミーゴの演劇を交え学んだ。アミーゴらしい手法で行うことができ好評であった。

2. 文化創造アトリエ施設管理事業（指定管理事業）

- ① 来館者、利用者の安心安全の確保とアメニティー空間を確保するため、施設の修繕、備品の補充に努めた。
また、館庭美化のため、ガーデンボランティアによる除草作業を春から秋にかけて月 1 回程度行った。
- ② 市民ニーズに対応した窓口サービスを心がけ、利用率の向上に努めた。

※施設の利用状況や修繕の内容は別紙にて報告。

3. 各種会議などの開催報告

※別紙にて報告。

4. その他活動報告

- ① 会員交流会の開催
2 回の交流会を実施した。
 - ・ 5/22（火）総会終了後に開催。事業のプレゼンテーションを行った。
 - ・ 12/11（火）国府弘子さんのミニコンサートの鑑賞と共に交流会を行った。
- ② 広報紙「赤いのこぎり屋根」を年 4 回発行した。
- ③ 足利栗田美術館見学などスタッフ研修会を実施した。（2012/9/12）
- ④ 希望する団体などに施設及び運営の説明を行った。（別紙報告）
- ⑤ 指定管理者受託に向けた申請書類の作成、第三者評価対応、選定委員会でのプレゼンテーションなど。

平成23年度 事業報告

1. 文化創造事業

文化創造事業については、市民の運営を基本とするアトリエ設置条例に基づき、市民力で感性豊かな文化芸術都市づくりを理念に事業活動を行ってきた。

4月は東日本大震災の影響で、自主事業の中止や延期などがあり、先行き不安があったが、その後平常に戻り事業計画に基づいた活動が実施できた。また、事業実施に当たっては「プラン推進会議」で計画を共有し、スタッフが協調して積極的に事業を行った。

多くの事業を通じ、アミーゴの各施設は、ステージと客席が近く、親近感、一体感があり、愛着の持てるまちづくりにアミーゴ施設が大いに役立つことが実感できた。また、同時に文化施設の存在意義は、事業参加者とのコミュニケーションを通して地域に支持されることが重要であることも認識できた。本年度も多面的な事業が実施でき成果があったと感じる。

[指定管理における文化創造事業]

- ① 「ひとづくり」事業では、文化芸術に関心を持つ方、それを支えるスタッフなどを積極的に育てていく企画を行っている。「アート倶楽部」では、アートに関する歴史や鑑賞法などを学ぶという企画で、本年は「近代日本画」をテーマに実施した。その他、将来のディレクター候補の発掘と育成、公演などに当たって案内や誘導、終演後の撤収など運営に関わるスタッフの育成を行った。
- ② 「魅力づくり」事業では、「のこぎり屋根の音楽会～アフタヌーンコンサート～」で気軽な音楽機会を提供し、「アミーゴライブ」「アミーゴ狂言会」「落語会」「源氏物語語り会」など上質な文化芸術を鑑賞する機会を提供してきた。地域内の武蔵野音楽大学との連携事業、地域産業である染織体験工房も継続して実施した。魅力あるアミーゴ、入間をアピールすることができた。
- ③ 「芽づくり」事業では、継続事業として「オペラ工房」、「ドラマ工房」などを実施した。オペラ工房は、昨年モーツァルト「魔笛」をアミーゴと産業文化センターで上演したが、その勢いを「ヴォイストレーニング」として市民オペラ合唱団の育成に力を入れた。「ドラマ工房」は、4月公演予定が東日本大震災の影響で2月公演になってしまったが、盛況のうちに実施出来た。将来の文化の担い手である子ども対象の事業として、「わくわく体験クラブ アミーゴキッズ」や「遊び場アートスタジオ」を実施した。
- ④ 「まちづくり」事業では、文化芸術を通じた地域との関係づくりを重視して「夏フェスタ」「秋まつり」を開催した。特に、「秋まつり」では、地域の中のアミーゴをアピールし、文化芸術を通じた地域との関係づくりを重視して実施した。多くの方の来場があり成果があった。

その他、法人独自事業であるが、アウトリーチ事業として「狂言・三味線の学校訪問」「公民館落語会」などを行った。本年は、例年より多くの要望があり、今までアミーゴで培った事業ノウハウを他施設に提供することができた。

[法人独自の文化創造事業]

指定管理業務としての文化創造事業のほか、多くの NPO 法人独自の事業を行った。4月に急遽、東日本大震災被災地支援チャリティーコンサートを実施し、義援金を送った。

日本たばこ産業㈱、子どもゆめ基金の助成を得て実施した「子ども対象事業」(アミーゴキッズ、ハロウィン表現遊び)、(財) 地域創造及び埼玉県と実施した邦楽地域活性化事業、学校・公民館などへの狂言、箏、落語、演劇のアウトリーチ事業などを開催した。また、西武地区の敬老会をアミーゴで開催し、アトラクションで落語家と呼ぶなどの連携をした。小中学校生徒がアミーゴに来て地域の歴史を劇団アミーゴの演劇を交え学んだ。アミーゴらしい手法で行うことができ好評であった。

2. 文化創造アトリエ施設管理事業（指定管理事業）

- ① 大震災での施設への影響はほとんどなかったが、改めて施設の再点検を行った。
- ② 計画停電により施設の利用が制限されたため、非常時対応で利用者の利便を図った。
- ③ 来館者、利用者の安心安全の確保とアメニティー空間を確保するため、施設の修繕、備品の補充に努めた。また、館庭美化のため、ガーデンボランティアによる活動を行った。
- ④ 市民ニーズに対応した窓口サービスを心がけ、利用率の向上に努めた。

※施設の利用状況や修繕の内容は別項にて報告する。

3. 各種会議などの開催報告

※別紙にて報告。

4. その他活動報告

① 会員交流会の開催

2回の交流会を実施した。

- ・5/24（火）総会終了後に開催。事業のプレゼンテーションを行った。
- ・12/14（水）ミニコンサートの鑑賞と共に交流会を行った。

- ② 広報紙「赤いのこぎり屋根」を年4回発行した。
- ③ 横浜開港資料館などスタッフ研修会を実施した。(2011/9/6)
- ④ 希望する団体などに施設及び運営の説明や懇談を行った。(別紙報告)
- ⑤ 貸館利用者にアンケート調査を実施した。(別紙参照)
- ⑥ 貸館利用者懇談会を実施した。

平成22年度 事業報告

1. 文化創造事業

文化創造事業については、市民の運営を基本とするアトリエ設置条例に基づき、市民力で感性豊かな文化芸術都市づくりを理念に事業活動を行ってきた。

個性的で創造性のあるアミーゴの施設と市民ディレクターの専門性を生かし、事業計画に基づいて事業活動を行った。また、事業実施に当たって「プラン推進会議」で計画を共有し、スタッフが協調して積極的に事業を行った。

[指定管理における文化創造事業]

- ① 「ひとつづくり」事業では、文化芸術に関心を持つ方、それを支えるスタッフなどを積極的に育てていく企画を行っている。2年目となる「アート倶楽部」は、アートに関する歴史や鑑賞法などを学ぶという企画で、本年は「仏像」をテーマに実施した。その他、事業実施に当たって音響や照明など裏方として運営に当たるスタッフが本番で作業するなどの活動を行った。
- ② 「魅力づくり」事業では、「のこぎり屋根の音楽会～アタヌンコンサート～」で気軽な音楽機会を提供し、「アミーゴライブ」「アミーゴ能楽座」など上質な文化芸術を鑑賞する機会を提供してきた。アミーゴ開館10周年の記念としてアミーゴ音楽アドバイザーである国府弘子さんのライブの公演を行った。地域内の武蔵野音楽大学との連携事業、地域産業である染織体験工房も継続して実施した。魅力あるアミーゴ、入間をアピールすることができた。
- ③ 「芽づくり」事業では、継続事業として「オペラ工房」、「ドラマ工房」などを実施した。オペラ工房は、昨年から一年かけて稽古練習に励んできた公募市民による合唱団やソリストによるモーツァルト「魔笛」が上演できた。アミーゴに来館出来ない方にも成果を見てもらおうと、アミーゴ開館10周年の記念として「市産業文化センター」でも公演した。多くの方が係わって内容の濃いものとなった。子ども対象の事業として、当NPO法人の独自事業ではあるが、助成金を得て行った「わくわく体験クラブ アミーゴキッズ」、「遊び場アートスタジオ」では、文化体験、自然体験を通して互いを認め合う心を育んだ。
- ④ 「まちづくり」事業では、アウトリーチ事業として「狂言・落語の学校訪問」「公民館でコンサート・落語会」などを行った。本年は、例年より多くの要望があり、今までアミーゴで培った事業ノウハウを他施設に提供することができた。また、アミーゴが地域コミュニティの担い手として、「夏フェスタ」「秋まつり」の開催に取り組んだ。多くの人に関わることで参加者一人ひとりが文化芸術を通じたコミュニティの一員であることを認識した。特に、「秋まつり」では、地域の中のアミーゴをアピールし、文化芸術を通じた地域との関係づくりを重視して実施した。多くの方の来場があり成果があった。

[法人独自の文化創造事業]

- ⑤ 指定管理業務としての文化創造事業のほか、本年度は多くの NPO 法人独自の事業を行った。

日本たばこ産業㈱の助成を得て「アミーゴキッズ」「遊び場アートスタジオ」事業、学校・公民館などへの狂言、音楽、落語のアウトリーチ事業、地域の魅力づくりのため「楽笑寄席」、開館 10 周年記念事業として市民オペラ「魔笛」の産業文化センターでの公演などを開催した。

2. 文化創造アトリエ施設管理事業（指定管理事業）

- ① 来館者、利用者の安心安全の確保とアメニティー空間を確保するため、施設の修繕、備品の補充に努めた。また、館庭美化のため、ガーデンボランティアによる活動を行った。
- ② 市民ニーズに対応した窓口サービスを心がけ、利用率の向上に努めた。

※施設の利用状況や修繕の内容は別項にて報告する。

3. 各種会議などの開催報告

※別紙にて報告。

4. その他活動報告

- ① アミーゴ開館 10 周年記念式典開催（2011/2/5）
本年度は、アミーゴ開館 10 周年に当たり、記念式典を開催した。木下市長はじめ来賓者と NPO 法人会員の参加によって行われ、開館までの歴史、10 年のあゆみを紹介した。
- ② 会員交流会の開催
2 回の交流会を実施した。
 - ・ 5/25（火）総会終了後に開催。事業のプレゼンテーションを行った。
 - ・ 12/15（水）ミニコンサートの鑑賞の後、交流を行った。
- ③ 広報紙「赤いのこぎり屋根」を年 4 回発行した。
- ④ 江戸東京博物館にてスタッフ研修会を実施した。（2010/9/8）
- ⑤ 希望する団体などに施設及び運営の説明や懇談を行った。（別紙報告）
- ⑥ 自主事業でアンケート調査を実施した。（別紙参照）

本年度も文化芸術分野で多面的な事業が実施でき成果があったと感じる。アミーゴの会場は、ステージと客席が近く、親近感、一体感のある事業が展開でき、愛着の持てるまちづくりにアミーゴ施設が大いに役立つことが実感できた。また、同時に文化施設の存在意義は、事業参加者とのコミュニケーションを通して地域に支持されることが重要であることも認識できた。

平成21年度 事業報告

事業の成果

入間市文化創造アトリエの指定管理者として、文化創造事業、施設管理事業を法人独自事業とともに実施した。文化創造事業については、市民参加、レクチャー、ワークショップを取り入れた事業に重点を置き活動を行った。また、文化芸術が地域のコミュニティづくりの求心的役割を担うために、積極的に地域と係わりを持つ事業を行った。

施設管理では、来館者の安心安全はもちろん、受付対応を含めた、快適で癒される館を目指した。

[指定管理における文化創造事業]

- ① 「ひとづくり」事業では、文化芸術に関心を持つ方、それを支えるスタッフなどを積極的に育てていく企画を行っている。新企画である「アート倶楽部」は、アートに関する歴史や鑑賞法などを学ぶという企画である。その他、他施設の見学やオペラの鑑賞の楽しみ方レクチャーなどを行った。多くの方の申し込みがあり、文化芸術には、多面的な係わり方があることが分かった。
- ② 「魅力づくり」事業では、「のこぎり屋根の音楽会～アフタヌーンコンサート～」で気軽な音楽機会を提供し、「アミーゴライブ」「アミーゴ能楽座」「のこぎり屋根のアート展」など上質な文化芸術を鑑賞する機会を提供してきた。地域産業である染織体験工房も継続して実施した。魅力あるアミーゴ、入間をアピールすることができた。
- ③ 「芽づくり」事業では、文化芸術活動に参加体験する事業を行ってきた。継続事業として「オペラ工房」、「ドラマ工房・劇団アミーゴ公演」などを実施した。オペラ工房は、公募市民による合唱団やソリストが一年間かけてモーツァルト「魔笛」を上演するものであるが、練習期間を一年とり、公演を次年度に行うという年度を跨る計画で行っている。アート関係では、遊びながらアートを体験する「遊び場アートスタジオ」が盛況であった。当 NPO 法人の独自事業ではあるが、助成金を得て行った「わくわく体験クラブ アミーゴキッズ」事業では、アミーゴを主会場に文化体験、自然体験を通して互いを認め合う心を育んだ。
- ④ 「まちづくり」事業では、アウトリーチ事業として「狂言の学校訪問」「公民館でコンサート・落語会」を行った。今までアミーゴで培った事業ノウハウを他施設に提供する事業である。また、アミーゴが地域コミュニティの担い手として、「夏フェスタ」「秋まつり」の開催に取り組んだ。文化芸術を通じた地域との関係づくりを重視して実施した。

[法人独自の文化創造事業]

- ⑤ 指定管理業務としての文化創造事業のほか、子どもゆめ基金の助成を得て「わくわく体験クラブ アミーゴキッズ」事業に取り組み、文化体験、自然体験を通して互いを認め合う心を育んだ。また、地域の魅力づくりのため「楽笑寄席」の開催、歌声プラットフォームを開催した。

[指定管理における文化創造アトリエの施設管理に関する事業]

- ⑥ 来館者、利用者の安心安全の確保とアメニティー空間を確保するため、施設の修繕、備品の補充に努めた。また、館庭美化のため、ガーデンボランティアによる活動を行った。
- ⑦ 市民ニーズに対応した窓口サービスを心がけ、利用率の向上に努めた。

文化芸術分野で社会性、公益性をもった事業を行い、成果があった。施設管理では、来館者から清潔な施設であると評価を得た。

特定非営利活動法人入間市文化創造ネットワーク

平成20年度 事業報告

平成19年度はNPO法人入間市文化創造ネットワークが設立され、その初年度として基盤作りの一年であった。20年度は入間市文化創造アトリエの指定管理者として、事業のみならず施設も含めNPO法人として管理運営を実施することとなった。

事業面では、オペラ合唱団や劇団アミーゴ、アミーゴキッズ!など、一年を通じた事業活動に力を入れた。結果として指導者や参加者の結びつきも強くなりアミーゴを中心とした文化創造の芽が大きく膨らんだ。また、地域のコミュニティの場を作ることを視野に秋まつりを実施し、文化芸術が持つ力で魅力的なまちづくりの可能性を広げることができた。

施設管理の面では、市民運営・市民自治を施設管理という面から実施した。このアトリエは、もともと使い勝手の悪い施設なので、貸館利用者のニーズの把握、窓口でのまごごろ対応など、少しでも使いやすい施設を目指した。事業概要は以下の通りである。

[指定管理における文化創造事業]

- ① 「ひとづくり」事業では、地域コミュニティの輪を広げる「夏フェスタ」「秋まつり」の開催に取り組んだ。多くの人に関わることで参加者一人ひとりが文化芸術を通じたコミュニティの一員であることを認識した。
- ② 「魅力づくり」事業では、「のこぎり屋根の音楽会～アフタヌーンコンサート～」で気軽な音楽機会を提供し、「中井貴恵・音語り」「アミーゴ能楽座」など上質な文化芸術を鑑賞する機会を提供してきた。地域産業である染織体験工房も継続して実施した。魅力あるアミーゴ、入間をアピールすることができた。
- ③ 「芽づくり」事業では、継続事業として「市民によるオペラ公演」、「ドラマ工房・劇団アミーゴ公演」などを実施した。オペラ公演では、プロのソリストに交じって市民合唱団が生き生きと演じ、新しい市民文化の芽吹きを感じた。子ども対象の事業も夏休みなどを利用して行い、アート関係では、遊びながらアートを体験する「遊び場アートスタジオ」が2年目を迎え盛況であった。
- ④ 「まちづくり」事業では、アウトリーチ事業として「狂言の学校訪問」公民館でコンサートなどを行った。今まで行った事業ノウハウを地域内の施設に提供する事業である。その他、入間市や実行委員会が行う事業に参加協力した。

[法人独自の文化創造事業]

- ⑤ ディレクター及びスタッフで大田区（エセナおおた）や川口市（樹モール商店街組合、アトリアなど）に行き、NPO法人による指定管理の運営状況やアートによるまちづくりの取り組みを視察研修した。当法人の指定管理に役立つことができた。指定管理業務としての文化創造事業のほか、子どもゆめ基金の助成を得て「わくわく体験クラブ アミーゴキッズ」事業に組み込み、文化体験、自然体験を通して互いを認め合う心を育んだ。また、成人式のカラオケ制作などの委託事業も実施した。

[指定管理における文化創造アトリエの施設管理に関する事業]

- ⑥ NPO法人として、行政ではできない市民感覚の接客とサービス（貸出物品の増加、チケット販売の取り扱いなど）の向上に努めた。そのための利用者懇談会の開催や利用者アンケートを実施した。

一年を通じ様々な事業を展開してきたが、それぞれの文化芸術分野で社会性、公益性をもった事業が行われ、成果があった。